

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本航空大学校 北海道
設置者名	日本航空大学校 北海道

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	航空整備科 一等航空整備士養成コース	夜・通信	912 時	240 時	
	航空整備科 二等航空整備士コース	夜・通信	1,755 時	240 時	
	航空整備科 二等航空運航整備士コース	夜・通信	1,347 時	240 時	
	航空整備科 製造技術コース	夜・通信	1,190 時	240 時	
専門課程	グランドハンドリング科	夜・通信	508 時	160 時	
専門課程	トータルモビリティ工学科 (旧：航空工学科)	夜・通信	1,800 時	320 時	
専門課程	キャビンアテンダント・グランドスタッフ科 エアラインコース	夜・通信	248 時	160 時	
	キャビンアテンダント・グランドスタッフ科 エアライン留学コース (旧：国際航空ビジネス科 エアライン留学コース)	夜・通信	248 時	240 時	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本航空大学校 北海道
設置者名	学校法人日本航空学園 理事長 梅澤 重雄

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/ （学園の事業報告書に記載しています）
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元) 法務大臣 現) 弁護士	2023.4.1 ～ 2027.3.31	健全な学園運営についての意見・監査、改善点を確認して頂く
非常勤	元) 最高検察庁公判部長 現) 弁護士	2023.4.1 ～ 2027.3.31	健全な学園運営についての意見・監査、改善点を確認して頂く
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本航空大学校 北海道
設置者名	学校法人日本航空学園 理事長 梅澤 重雄

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
授業計画書：新年度開始前に授業方法（学科教育、実技教育）、授業科目ごとに教育目標、授業内容、年間授業計画を定め作成し、3月中に公開する	
成績評価の方法：定期試験結果により4段階評価	
授業計画書の公表方法	ホームページ https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

各授業科目の学修成果は定期試験、出席状況にて厳格かつ適正に実施し、
単位を認定する
成績評価は定期試験結果により 4 段階評価

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

各学生の客観的評価は定期試験結果の平均点によりクラス順位で示す

各学生の科目評価 0 ～ 49 点：不可

50 ～ 59 点：可

60 ～ 79 点：良

80 ～100 点：優

と 4 段階評価

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホ ー ム ペ ー ジ
tech.jp/college/disclosure/

<https://www.jaa->

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業認定：学生が身に付けるべき資質、能力を定期試験、出席状況により判断し、単位を認定された者
卒業に必要な単位数は、本校において課する全単位とする。

卒業にあたり、単位未修得者は、卒業を延期する。この場合以下の規定によって卒業を認定する。

1. 3 月中に実施する追認試験に合格した者は当該年度の卒業を認める。
- 1 ができない者で向後 1 ヶ年以内に行う追認試験に合格した者は、翌年 3 月卒業を認定する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページ

[https://www.jaa-](https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/)
[tech.jp/college/disclosure/](https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/)

[https://www.jaa-](https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/)

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本航空大学校 北海道
設置者名	学校法人日本航空学園 理事長 梅澤 重雄

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホ - ム ペ - シ https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	ホ - ム ペ - シ https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/
財産目録	ホ - ム ペ - シ https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/
事業報告書	ホ - ム ペ - シ https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/
監事による監査報告（書）	ホ - ム ペ - シ https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報-1

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	航空整備科（一等航空整備士養成コース）	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2853 単位時間/単位	1525 時間/単位	単位時間/単位	1328 時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
		2853 単位時間/単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
318 人の内 20 人		18 人	0 人	5 人	1 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画書：新年度開始前に授業方法（学科教育、実技教育）、授業科目ごとに教育目標、授業内容、年間授業計画を定め作成 成績評価の方法：定期試験結果により4段階評価
成績評価の基準・方法
（概要） 出欠、期末考査、課題の総合評価で50点以上が合格
卒業・進級の認定基準
（概要） 所定の修業年限在学し、所定の単位数を取得した場合に、進級・卒業判定

学修支援等 (概要) メンタルヘルスケアの実施、個別面談実施 欠席した時数の補講実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (88%)	0人 (0%)	7人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 航空業界			
(就職指導内容) 担任による面談。就職指導担当者による指導、助言			
(主な学修成果（資格・検定等）) 二等航空運航整備士			
(備考)（任意記載事項） 航空整備科は2年次にコース分けとなるため、生徒実員には1年生は含んでおりません。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	1人	5%
(中途退学の主な理由) 一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人、保護者との話し合い カウンセラーによるカウンセリング		

① 学科等の情報-2

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	航空整備科（二等航空整備士コース）	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2952 単位時間／単位	1197 時間/単位	単位時間 / 単位	1755 時間/単位	単位時間 / 単位	単位時間 / 単位
			2952 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
318 人の内 60 人		53 人	2 人	14 人	2 人	16 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画書：新年度開始前に授業方法（学科教育、実技教育）、授業科目ごとに教育目標、授業内容、年間授業計画を定め作成 成績評価の方法：定期試験結果により 4 段階評価
成績評価の基準・方法
（概要） 出欠、期末考査、課題の総合評価で 50 点以上が合格
卒業・進級の認定基準
（概要） 所定の修業年限在学し、所定の単位数を取得した場合に、進級・卒業判定
学修支援等
（概要） メンタルヘルスケアの実施、個別面談実施 欠席した時数の補講実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (96%)	0 人 (0%)	23 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 航空業界			
（就職指導内容） 担任による面談。就職指導担当者による指導、助言			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二等航空整備士			

(備考) (任意記載事項)
航空整備科は2年次にコース分けとなるため、生徒実員には1年生は含んでおりません。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53人	1人	2%
(中途退学の主な理由) 一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人、保護者との話し合い カウンセラーによるカウンセリング		

① 学科等の情報-3

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	航空整備科（二等航空運航整備士コース）	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2664 単位時間／単位	1197 時間/単位	単位時間 / 単位	1467 時間/単位	単位時間 / 単位	単位時間 / 単位
			2664 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
318 人の内 60 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画書：新年度開始前に授業方法（学科教育、実技教育）、授業科目ごとに教育目標、授業内容、年間授業計画を定め作成 成績評価の方法：定期試験結果により 4 段階評価
成績評価の基準・方法
（概要） 出欠、期末考査、課題の総合評価で 50 点以上が合格
卒業・進級の認定基準
（概要） 所定の修業年限在学し、所定の単位数を取得した場合に、進級・卒業判定
学修支援等
（概要） メンタルヘルスケアの実施、個別面談実施 欠席した時数の補講実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 航空業界			
（就職指導内容） 担任による面談。就職指導担当者による指導、助言			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二等航空運航整備士			

(備考) (任意記載事項)
航空整備科は2年次にコース分けとなるため、生徒実員には1年生は含んでおりません。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人、保護者との話し合い カウンセラーによるカウンセリング		

① 学科等の情報-4

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	航空整備科（製造技術コース）	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2667 単位時間/単位	1347 時間/単位	単位時間/単位	1320 時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2667 位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
318 人の内 72 人		29 人	0 人	10 人	3 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画書：新年度開始前に授業方法（学科教育、実技教育）、授業科目ごとに教育目標、授業内容、年間授業計画を定め作成 成績評価の方法：定期試験結果により 4 段階評価
成績評価の基準・方法
（概要） 出欠、期末考査、課題の総合評価で 50 点以上が合格
卒業・進級の認定基準
（概要） 所定の修業年限在学し、所定の単位数を取得した場合に、進級・卒業判定
学修支援等
（概要） メンタルヘルスケアの実施、個別面談実施 欠席した時数の補講実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14 人 (100%)	0 人 (0%)	14 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 航空業界			
（就職指導内容） 担任による面談。就職指導担当者による指導、助言			
（主な学修成果（資格・検定等）） 非破壊試験技術者、ガス溶接技能講習			

(備考) (任意記載事項)
航空整備科は2年次にコース分けとなるため、生徒実員には1年生は含んでおりません。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人、保護者との話し合い カウンセラーによるカウンセリング		

① 学科等の情報-5

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	グランドハンドリング科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1778 単位時間/単位	1044 時間/単位	単位時間/単位	734 時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1778 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		158人	0人	9人	2人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画書：新年度開始前に授業方法（学科教育、実技教育）、授業科目ごとに教育目標、授業内容、年間授業計画を定め作成 成績評価の方法：定期試験結果により4段階評価
成績評価の基準・方法
（概要） 出欠、期末考査、課題の総合評価で50点以上が合格
卒業・進級の認定基準
（概要） 所定の修業年限在学し、所定の単位数を取得した場合に、進級・卒業判定
学修支援等
（概要） メンタルヘルスケアの実施、個別面談実施 欠席した時数の補講実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
77人 (99%)	0人 (0%)	77人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 航空業界			
（就職指導内容） 学生の適正診断 入社試験対策の実施（筆記試験・面接試験）			
（主な学修成果（資格・検定等）） フォークリフト運転技能、高所作業車運転技能、国際航空貨物取扱士			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
158 人	4 人	2.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人、保護者との話し合い カウンセラーによるカウンセリング		

① 学科等の情報-6

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	トータルモビリティ 工学科 (旧：航空工学科)		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3570 単位時間/単位	1800時間 /単位	単位時間 /単位	1770時 間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3570 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		47人	0人	5人	5人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画書：新年度開始前に授業方法（学科教育、実技教育）、授業科目ごとに教育 目標、授業内容、年間授業計画を定め作成 成績評価の方法：定期試験結果により4段階評価
成績評価の基準・方法
（概要） 出欠、期末考査、課題の総合評価で50点以上が合格
卒業・進級の認定基準
（概要） 所定の修業年限在学し、所定の単位数を取得した場合に、進級・卒業判定
学修支援等
（概要） メンタルヘルスケアの実施、個別面談実施 欠席した時数の補講実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (%)	11人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 航空業界、自動車業界			
(就職指導内容) 担任による面談。就職指導担当者による指導、助言			
(主な学修成果(資格・検定等)) CAD利用技術者			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47 人	1 人	2 %
(中途退学の主な理由) 一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人、保護者との話し合い カウンセラーによるカウンセリング		

① 学科等の情報-7

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	キャビンアテンダント・グラウンドスタッフ科 エアラインコース	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1860 単位時間/単位	1519 時間 /単位	単位時間 /単位	341 時間/ 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1860 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		198 人	2 人	7 人	5 人	12 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書：新年度開始前に授業方法 (学科教育、実技教育)、授業科目ごとに教育目標、授業内容、年間授業計画を定め作成 成績評価の方法：定期試験結果により 4 段階評価
成績評価の基準・方法
(概要) 出欠、期末考査、課題の総合評価で 50 点以上が合格
卒業・進級の認定基準
(概要) 所定の修業年限在学し、所定の単位数を取得した場合に、進級・卒業判定
学修支援等
(概要) メンタルヘルスケアの実施、個別面談実施 欠席した時数の補講実施

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
69 人 (100%)	0 人 (%)	69 人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 航空業界			
(就職指導内容) 出願書類の作成指導、面接指導			

(主な学修成果 (資格・検定等)) 実用英語技能検定、秘書検定、サービス接遇検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
198 人	4 人	2 %
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人、保護者との話し合い カウンセラーによるカウンセリング		

① 学科等の情報-8

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	キャビンアテンダント・グラウンドスタッフ科 エアライン留学コース (旧：国際航空ビジネス科 エアライン留学コース)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2790 単位時間/単位	2449 時間/単位	単位時間/単位	341 時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2790 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	28人	2人	7人	5人	12人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書：新年度開始前に授業方法 (学科教育、実技教育)、授業科目ごとに教育目標、授業内容、年間授業計画を定め作成 成績評価の方法：定期試験結果により 4 段階評価
成績評価の基準・方法
(概要) 出欠、期末考査、課題の総合評価で 50 点以上が合格
卒業・進級の認定基準
(概要) 所定の修業年限在学し、所定の単位数を取得した場合に、進級・卒業判定
学修支援等
(概要) メンタルヘルスケアの実施、個別面談実施 欠席した時数の補講実施

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (%)	11人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 航空業界			

(就職指導内容) 出願書類の作成指導、面接指導
(主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定、秘書検定、サービス接客検定
(備考) (任意記載事項) キャビンアテンダント・グランドスタッフ科 エアライン留学コースは2年次にコース分けとなるため、生徒実員には1年生は含んでおりません。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人、保護者との話し合い カウンセラーによるカウンセリング		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
航空整備科	250,000 円	420,000 円	540,000 円	
グランドハンドリング科	250,000 円	420,000 円	550,000 円	
キャビンアテンダント・グランドスタッフ科	250,000 円	600,000 円	300,000 円	
トータルモビリティ工学科 (旧：航空工学科)	250,000 円	420,000 円	540,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 航空関係、公益社団法人、社会福祉法人の方で委員を構成し、「教育理念・目標」等 11 項目について評価する。 委員からの意見、課題に対しては教職員全員で真摯に受け止め、質の向上を図るとともに、評価の結果を公開している。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公益社団法人 日本航空技術協会	R7.4.1～R10.3.31	企業委員
ANA 新千歳空港(株)	R7.4.1～R10.3.31	企業委員
(株)JAL グランドサービス札幌	R7.4.1～R10.3.31	企業委員
全日本空輸(株)	R7.4.1～R10.3.31	企業委員
(株)IHI	R7.4.1～R10.3.31	企業委員
(株)JAL エンジニアリング	R7.4.1～R10.3.31	企業委員
(株)JAL スカイ札幌	R7.4.1～R10.3.31	企業委員
公益社団法人 千歳青少年教育財団	R7.4.1～R10.3.31	公益社団法人委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.jaa-tech.jp/college/disclosure/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H101322400014
学校名 (〇〇大学 等)	日本航空大学校 北海道
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人日本航空学園 理事長 梅澤 重雄

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		77人 (4) 人	72人 (6) 人	149人 (10) 人
内 訳	第Ⅰ区分	40人	36人	
	(うち多子世帯)	(0 人)	(0 人)	
	第Ⅱ区分	14人	16人	
	(うち多子世帯)	(0 人)	(0 人)	
	第Ⅲ区分	16人	11人	
	(うち多子世帯)	(0 人)	(0 人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	3人	6人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	4人	3人	
	区分外 (多子世帯)	0人	0人	
家計急変による 支援対象者 (年間)				1人 (0) 人
合計 (年間)				149人 (10) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。